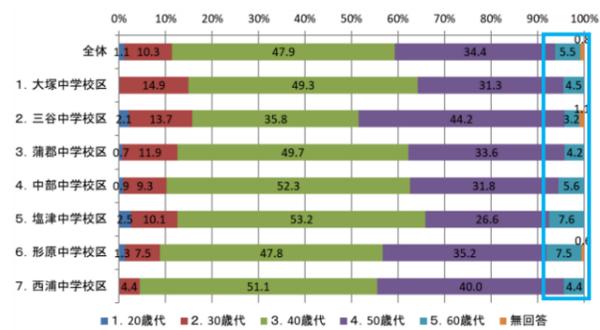


蒲郡市住生活基本計画 アンケート調査結果のとりまとめ

I アンケート調査結果（一般市民）

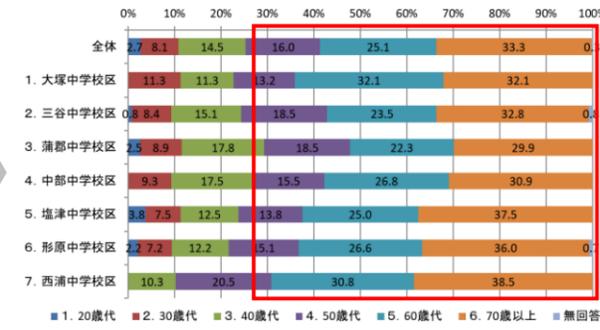
1. 経年比較 ※左側：平成20年、右側：令和2年

○年齢



一般市民アンケート 問2 (P2)

「60歳以上」回答者の増加



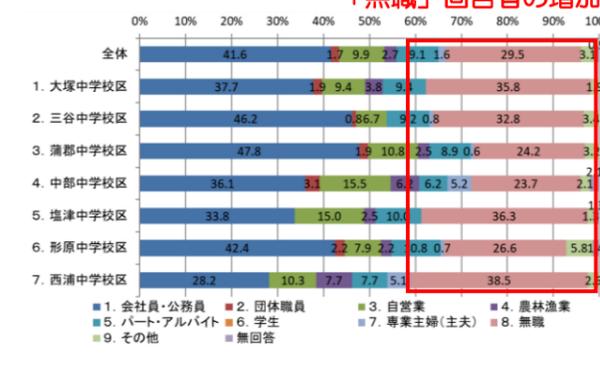
○職業

「会社員」が約6割

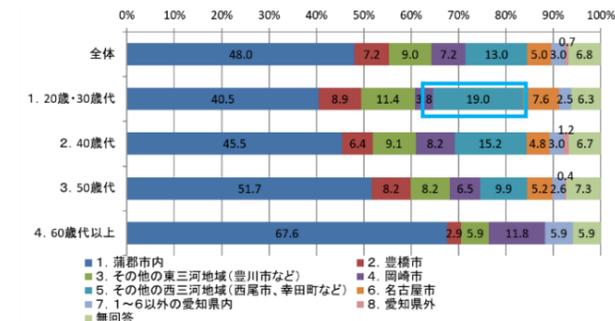


一般市民アンケート 問7 (P7)

「無職」回答者の増加

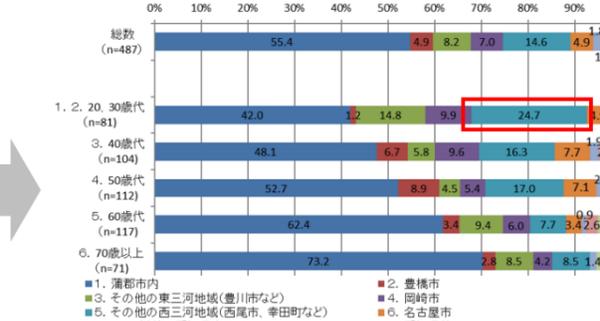


○勤務先

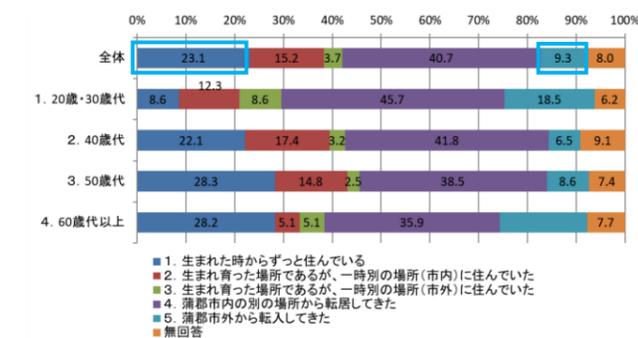


一般市民アンケート 問8 (P8)

「20、30歳代」で「その他の西三河地区（西尾市、幸田町）」が増加



○現在の住まいへの転入・転居状況



一般市民アンケート 問15 (P15)

「生まれた時からずっと住んでいる」が減少、「市外からの転入」が増加



○住宅や住環境の満足度

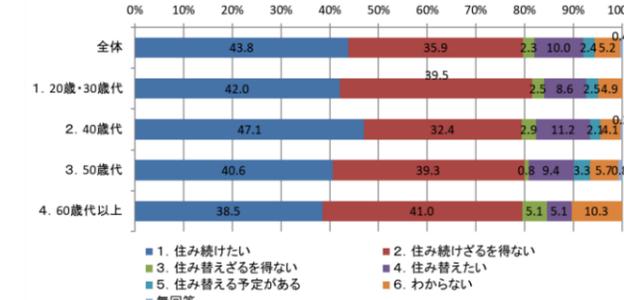


一般市民アンケート 問18 (P20) を評点算出

「住宅の広さや間取り」増加

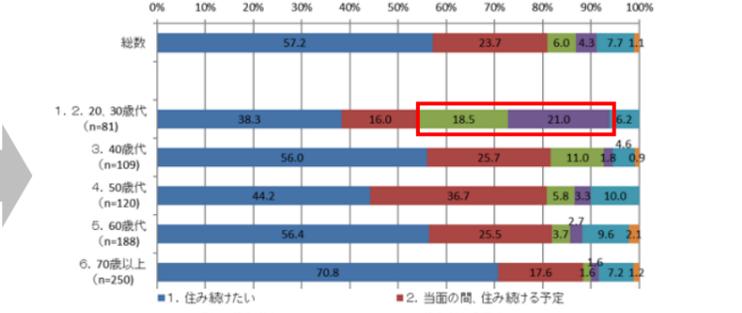


○今後の定住意向

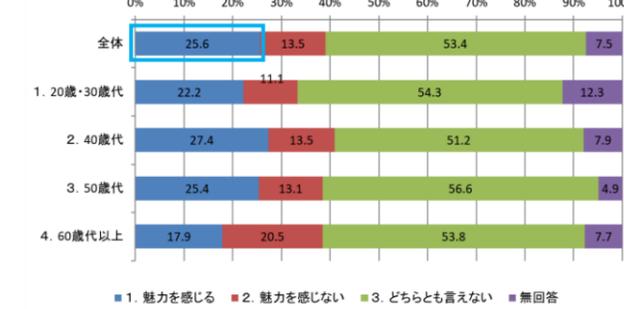


一般市民アンケート 問23 (P45)

「20、30歳代」で住み替え希望・予定が増加

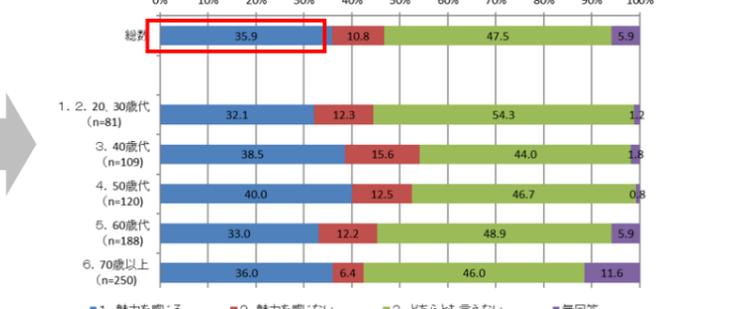


○蒲郡に住むことに魅力を感じるか



一般市民アンケート 問33 (P69)

「魅力を感じる」が増加



2. 調査結果のとりまとめ

①末永く住み続けられる住宅への転換が必要

現行計画の「住宅マスタープラン」では、住宅の供給に重点をおいて施策を展開してきました。その結果、住宅に関しては、「広さや間取り」、「日当たり」、「設備」などの満足度は高くなっています。しかし、「バリアフリーへの対応」や「省エネ対策等の環境の配慮」については満足度が低くなっています。そこで、住宅の性能では、ずっと住み続けられる住宅に対する取組が必要となります。

②今後の災害に対する備えが必要

蒲郡市としての魅力においては、「洪水や土砂災害などの災害の心配が少ない」と答えた人が多く、「50 歳代」以上で多い傾向にあります。しかし、地震や風水害の時の安全性に対する満足度は低く、全世代の半数程度が「やや不満」、「不満」と感じています。また、住宅の耐震改修については、「昭和 50 年代」以前の建物を所有している割合が多い「60 歳代」以上で、災害に対する危機感を持っている人が少ないと考えられることから、災害に対する備えが必要となります。

③高齢者・障がい者に対する居住支援は十分に満足されていない

現行計画のアンケート結果「今後の居住環境の重点改善の項目」では、「高齢者・障がい者への支援」を求める声が多くありましたが、今回のアンケートでは、満足度が低くなっています。そのため、今後も高齢者・障がい者のための居住支援などの取組については更に強化する必要があります。

④空家に対しては、今後の増加を見据えた早期の対策が必要

空家に対する不安は、「中部中学校区」、「塩津中学校区」以外で、近隣の空家に対する不安を持っている人いることから、地域によっては対策を講じる必要があります。

また、多くの人々が「今は所有していない」が、対策が分からないと回答しています。今後所有する場合に不安を感じている人が多いため、今から活用策を知ってもらう取組が必要となります。

一般市民アンケート 問 18 (P20) を評点算出



住宅及び住居環境の満足度



住宅及び住居環境の満足度



住宅及び住居環境の満足度

一般市民アンケート 問 17 (P18)



空家に対する不満や問題等

⑤若者の流入促進、流出防止の取組が必要

定住意向では、「20、30 歳代」で住み替えを求める人が多い傾向にあり、その理由としては、「土地または住宅を購入したため」、「子育てをする環境を良くするため」が上位となっています。また、「住宅が狭い、間取りが悪いため」も理由の上位となっています。転居先では、市内と市外が半数となっていることから、市外への流出防止の取組が必要となります。また、蒲郡市として力を入れて欲しいことでは、「企業立地などによる雇用の拡大施策の推進」を求める声もあることから、それらも踏まえた取組が必要となります。

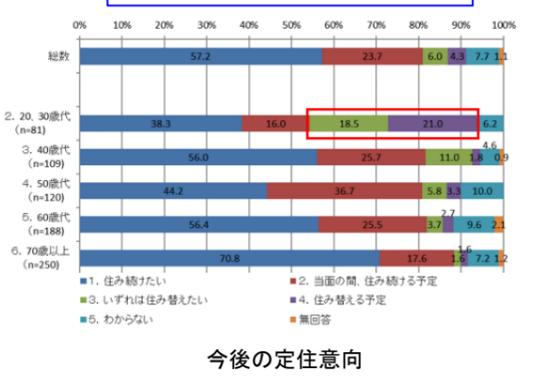
⑥子育ての視点に重点を置いた住環境の向上が必要

子育て世代の子育て環境に対する意見としては、「20、30 歳代」で、「まわりの通路の歩行時の安全性」、「子どもの遊び場、公園など」を求める声が多くなっています。蒲郡市の魅力として、「20、30 歳代」で、「保育・子育てサービスが充実している」と回答している人はいるものの、蒲郡市に力を入れて欲しい取組としては、「若者や子育て世帯の定住が進むような支援や施策の推進」、「道路や公園などの住環境整備の推進」を求める声が多いことから、子育て世代対象の支援や住環境の整備を推進していくことが求められます。

⑦外国人との共生に向けた取組が必要

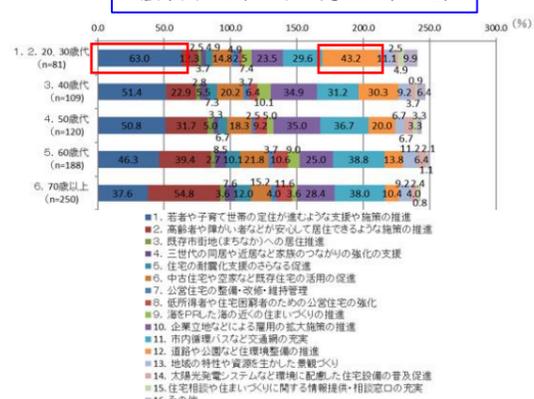
近所に外国人が住んでいる事を知っているが、会話をする人が少なく、騒音やゴミ出しなどでトラブルになっている人がいます。互いの文化や生活を理解するなど、トラブルをなくすための取組が必要となります。

一般市民アンケート 問 23 (P45)



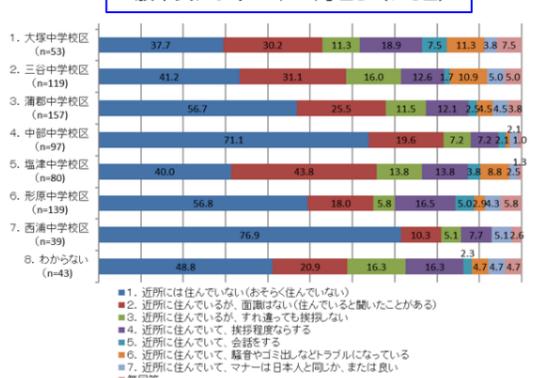
今後の定住意向

一般市民アンケート 問 35 (P72)



蒲郡市に力を入れて欲しい取組

一般市民アンケート 問 28 (P52)

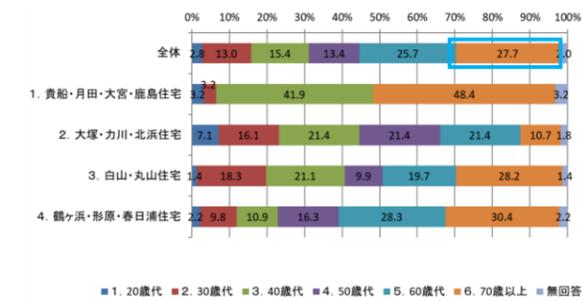


近隣の外国人の住まいの状況

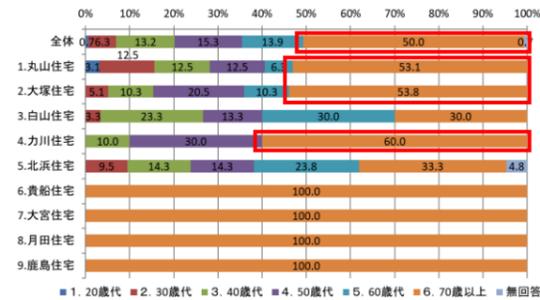
II アンケート調査結果（市営住宅）

3. 経年比較 ※左側：平成20年、右側：令和2年

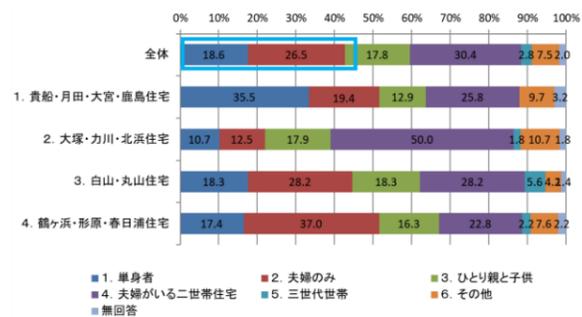
○年齢



「丸山住宅」、「大塚住宅」、「力川住宅」で、「70歳以上」が多い

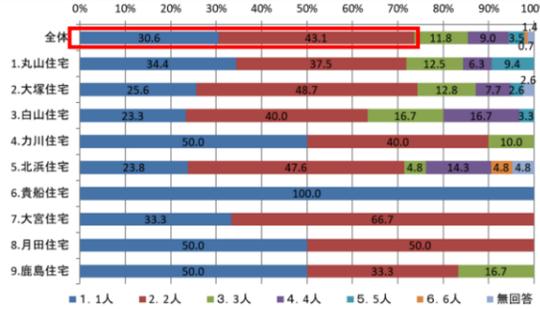


○世帯人数

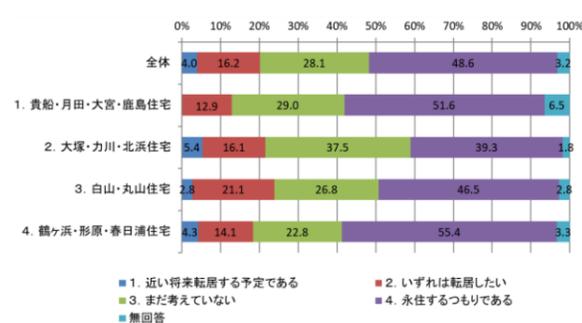


市営住宅入居者アンケート 問4 (P6)

「単身者」、「夫婦のみ」が増加

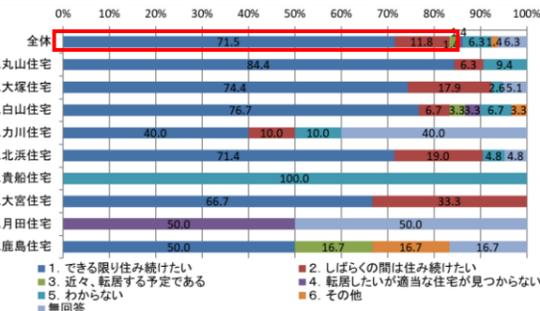


○今後の定住意向



市営住宅入居者アンケート 問14 (P25)

「できる限り住み続けたい」が多い

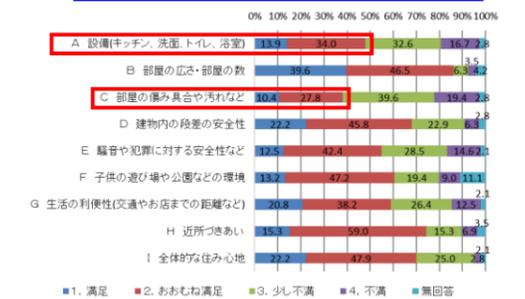


4. 調査結果のとりまとめ

①市営住宅の評価から設備と老朽化への対応が必要

市営住宅の評価では、「設備（キッチン、洗面、トイレ、浴室）」と「部屋の傷み具合や汚れなど」の満足度が低くなっています。また、室内の設備で改善を希望する点では、「キッチン・洗面・トイレなどの設備を新しくして欲しい」、「床・壁・天井などの室内全体が古いため、新しくして欲しい」が多くなっています。設備の改善や部屋のリフォームを希望する声が多いため、老朽化への対応が必要となります。

市営住宅入居者アンケート 問8 (P10)



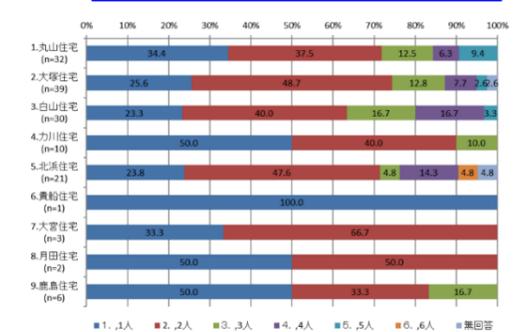
市営住宅の評価

②単身者、夫婦のみの増加に対する対応

市営住宅では、単身者、夫婦のみ世帯が増加しています。今後、蒲郡市では高齢化がさらに進むことが予想されることから、高齢の単身者、夫婦のみ世帯が増加すると考えられます。

将来こうなったらよいと思う市営住宅において、高齢者では、「新しい機能の整った市営住宅」、「高齢者が静かにのんびりと過ごせる市営住宅」を求めていることから、その対応が必要となります。

市営住宅入居者アンケート 問4 (P6)

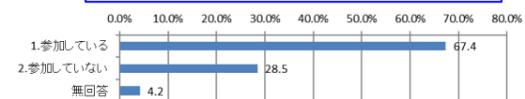


市営住宅別の世帯人数

③市営住宅ではコミュニティが形成されている

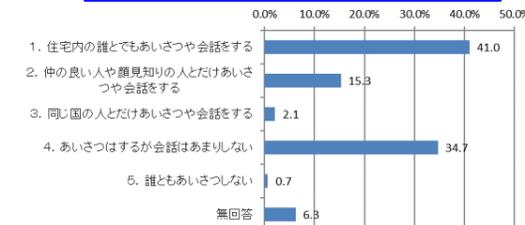
市営住宅では、「住宅の環境を良くするために協力していただけること」や「地域活動への参加状況」、「住宅内でのコミュニケーションの状況」から、コミュニティが形成されていると想定されます。しかし、外国人との共生については、自由意見から騒音やマナーのトラブルがみられます。今後、外国人入居者が増えることが予想されることから、市営住宅のルールなどの多言語リーフレットの作成や日本語教室の案内、団地内のコミュニケーション環境を整えるための支援が必要となります。

市営住宅入居者アンケート 問11 (P22)



地域活動への参加状況

市営住宅入居者アンケート 問13 (P24)



住宅内のコミュニケーションの状況